

竜串ビジターセンター（仮称）

基本設計 概要版

平成 29 年 2 月

環境省中国四国地方環境事務所

土佐清水自然保護官事務所

ビジターセンター（VC）整備の目的・機能

【竜串の価値】

- 約100種類のサンゴが良好に保全されている日本初の海中公園
- 利用施設（足摺海洋館、爪白キャンプ場など）や自然資源を活かした多様なメニューがまとまって存在している

【課題】

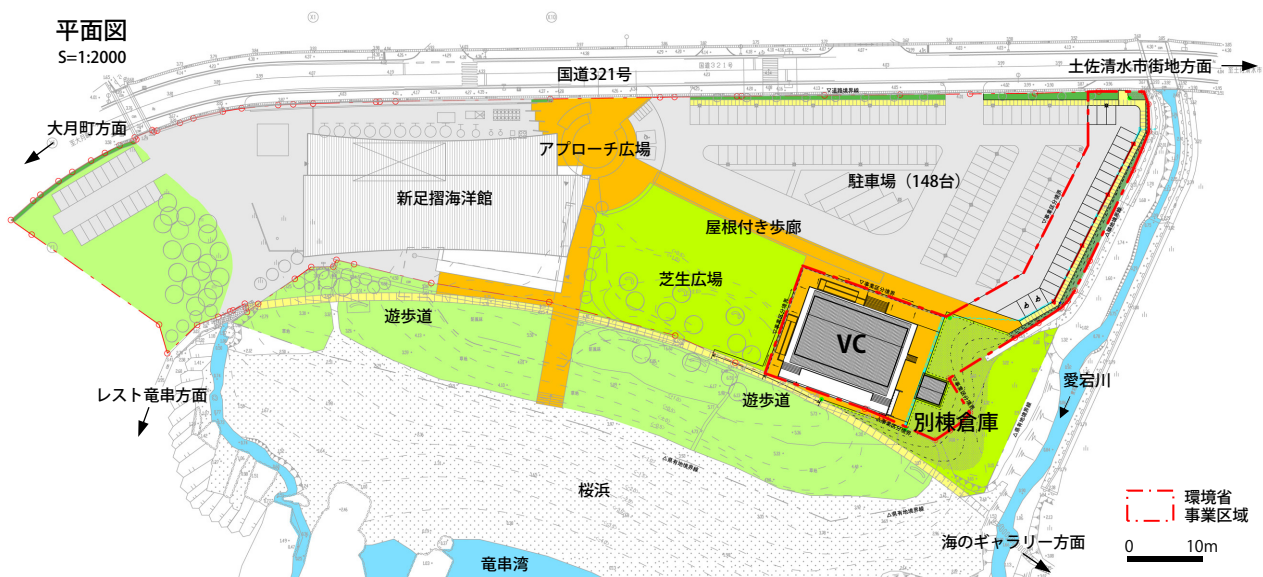
- 土佐清水市の観光者数が減少（国立公園の利用者数も減少）
- 自然再生の取組は着実に成果を上げてきたが、オニヒトデ被害などの海の脅威は継続中

目的	1 竜串地区全体の利用者増加を目指した地域のエントランス 2 自然資源の保全・活用の拠点	
	4つの機能	
① 観光コンシェルジュ	○周辺でのアクティビティ等の一括した情報提供 ○ツアーの申込受付・ツアー拠点としての利用	
② 環境教育・普及啓発	○学校教育の受け入れ ○自然観察会の開催	
③ 展示・情報発信	○足摺宇和海国立公園・土佐清水ジオパークの紹介 ○自然再生事業や保全対策の最新情報の発信	
④ 調査・研究支援	○研究者のフィールド活動を支援する空間・設備 ○外部の調査・研究者のための活動支援環境	

基本設計方針（環境保全上の配慮事項を含む）

- ① 高知県事業施設との利用空間・意匠の一体感の創出
 - ・VCと新海洋館を結ぶ動線、共用施設がバリアフリーかつ相乗的に機能する空間設計
 - ・自然景観と調和しつつ、新海洋館および外構施設と一体感のある意匠デザイン
- ② 地形・植生の保全と竜串湾への通景確保のバランス
 - ・強い風雨と飛砂の緩衝帯である丘状の地形と防風林を極力保全しつつ、竜串湾への通景や利用とのバランスがとれた造成計画、施設設計
- ③ 竜串地のエントランス・地域観光のハブ施設に相応しい空間づくり
 - ・VCの4つの機能に対応可能な、コンパクトながらフレキシブルな空間づくり
 - ・外部に開かれた施設づくり、地元の方々が気軽に立ち寄り利用できる雰囲気づくり
- ④ 高知県事業施設との完成時期のズレを組み込んだ計画設計
 - ・VCに近接した現海洋館の付帯施設と共存できる施設の整備・運用、新海洋館の外構施設が整備されるまでの仮設等を考慮した計画設計
- ⑤ ライフサイクルコストの最小化・メンテナンスの容易化への配慮
 - ・環境負荷とコストの削減に応える空間・設備設計
 - ・地元木材の活用など、地域らしい外観づくり、地域の環境保全と経済活性化を後押しする視点を組み込んだ意匠設計

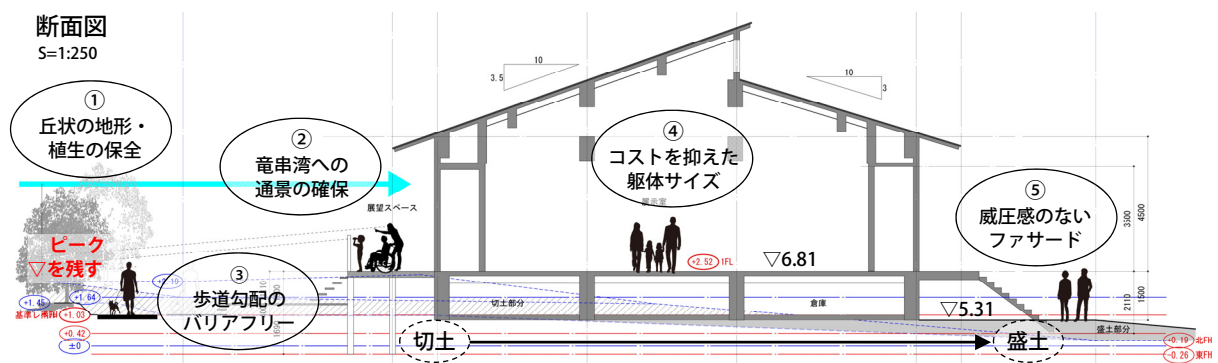
配置計画



VC整備予定場所



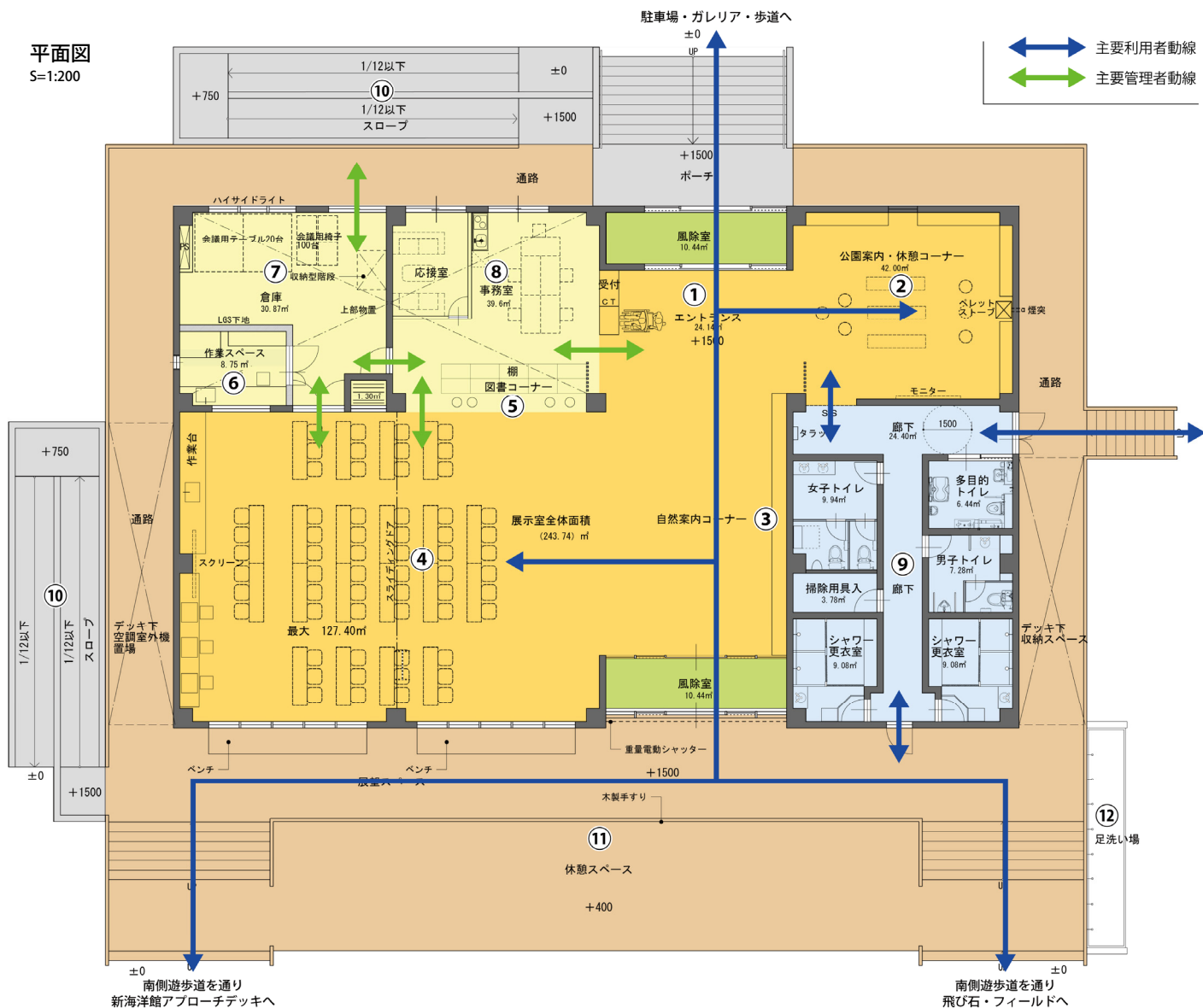
- 敷地東側に環境省事業区域を設け、その南側にVCを配置（現海洋館の浄化槽への干渉を避けるため、基本計画で定めた当初配置を変更）
- フィールド活動の用具を収納できる倉庫を、VCの東側に設置



- VC南側の丘状の地形をピークを残して切り下げ、残土を南側に盛ることで宅盤を造成
- 宅盤の計画高は、上図の①～⑤のバランスのとれた高さ (FH=5.31) とする
- VCの床面の高さは、高潮や津波後の建物の再使用を考慮し、宅盤+1.5m (FL=6.81)
- 宅盤造成に伴う防風林の間引き等の詳細は、高知県の植物調査の結果に基づき検討予定

建築計画

平面図
S=1:200



① エントランスホール

- ・観光コンシェルジュを兼ねた利用受付（周辺のアクティビティ案内、チケット販売等。車椅子対応）
- ・公園案内・休憩コーナーと一体的に利用

② 公園案内・休憩コーナー

- ・補助暖房としてペレットストーブ（or 薪ストーブ）を設置し、地元の方々の憩いの場としても利用

③ 自然案内コーナー

- ・展示室と連携して利用（展示什器の仮置きなど）

④ 展示室（収容人数＝通常60名・最大100名）

- ・展示、レクチャー、イベントなど、多目的利用に対応（可動間仕切、可動式の展示什器を使用）
- ・プロジェクターおよび巻上式スクリーンを配備
- ・流し台と作業台を配備

⑤ 図書コーナー

- ・座って図書を閲覧できる

⑥ 作業スペース

- ・主にフィールドで採取したサンプルの一次処理などの作業に使用（流し、フリーザー、換気扇等を配備）
- ・展示室から窓越しに中の様子を見学できる

⑦ 倉庫・屋根裏物置

- ・通常時、レクチャー用の椅子や机等を収納
- ・倉庫および事務室の屋根裏を物置として活用（収納式階段によりアクセス）

⑧ 事務室

- ・展示室等を見渡せるオープンカウンター方式

⑨ トイレ・シャワー・更衣室

- ・休館日も利用可能（公園案内・休憩コーナーとの間にシャッター）

⑩ スロープ

- ・VCの北面と西面に配置

⑪ デッキ

- ・VCの四方を囲うように配置
- ・竜串湾を眺望できる展望スペース、多目的利用に対応した休憩スペースを配置

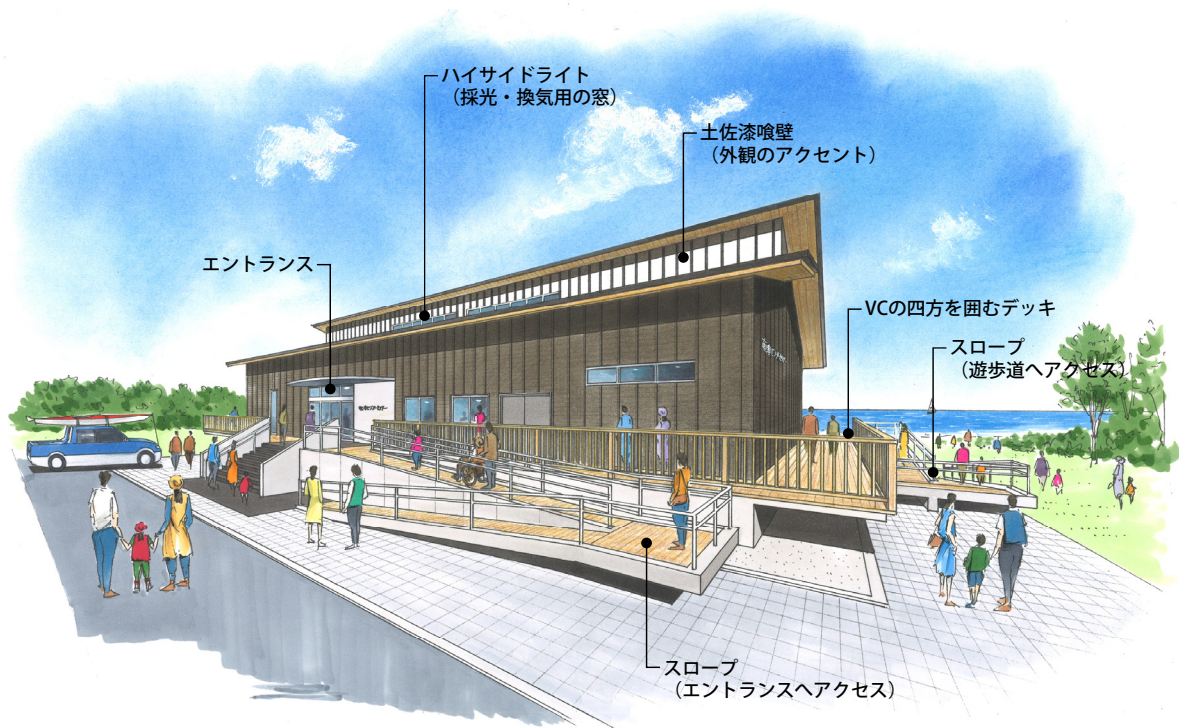
⑫ 足洗い場

- ・シャワー付き

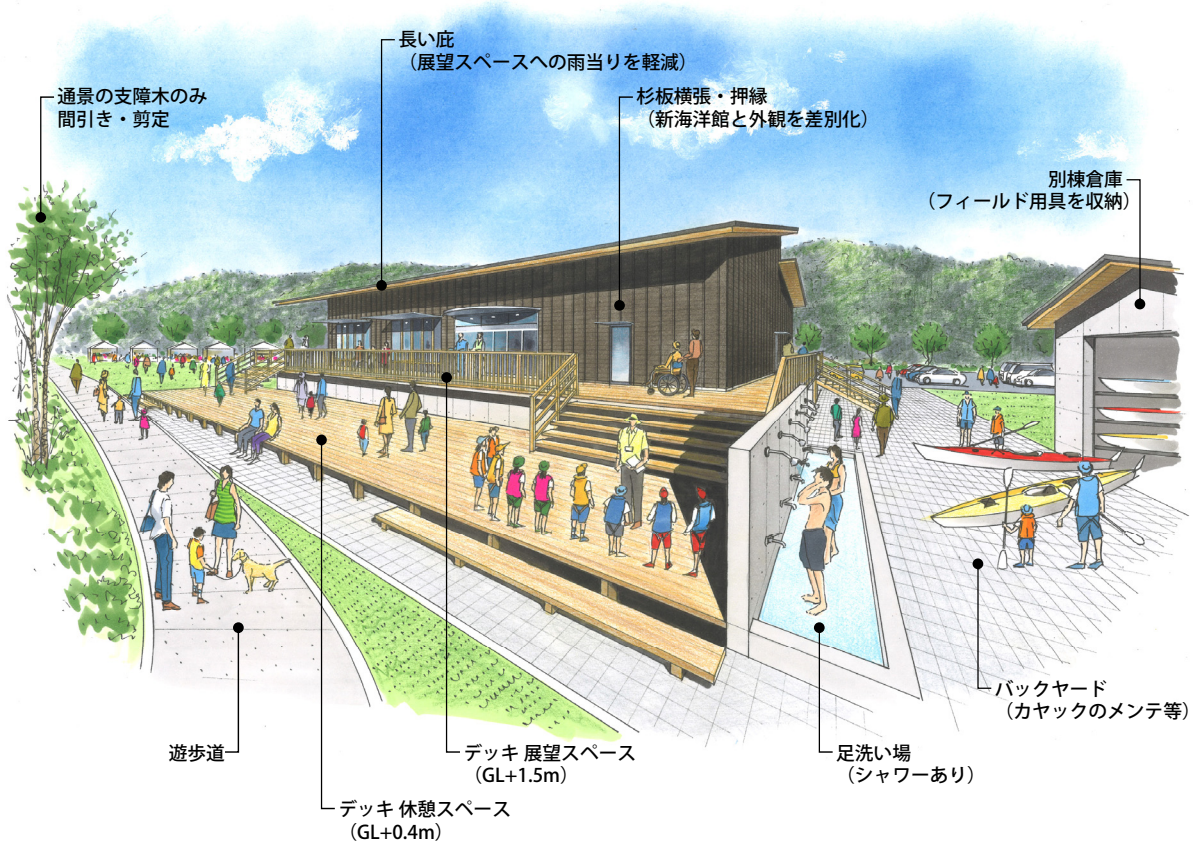
- ・床面積：416㎡（別棟倉庫36㎡）
- ・構造・規模：鉄筋コンクリート造・地上1階

外装・利用イメージ

北面（駐車場・エントランス側）



南面（桜浜・デッキ側）

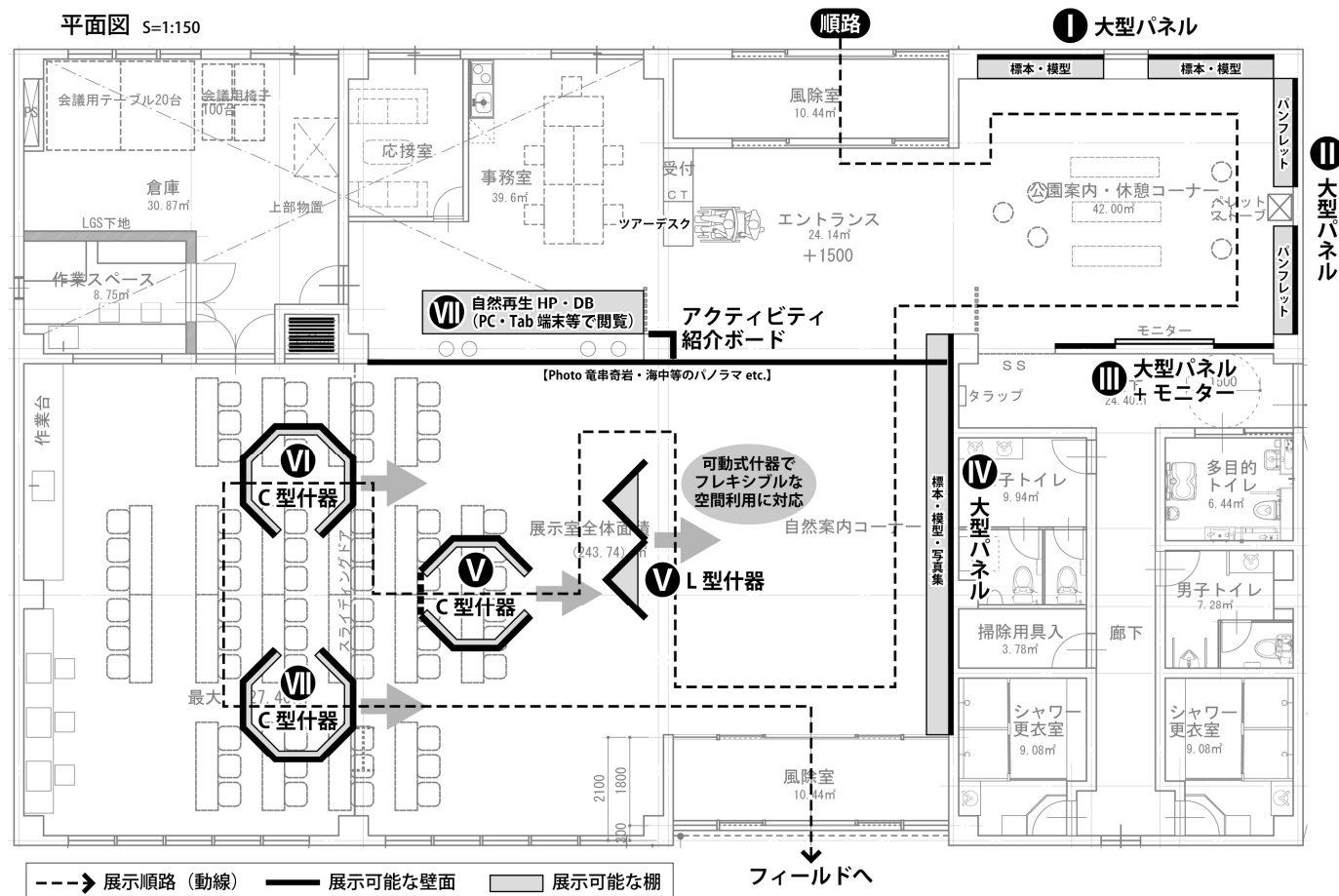


展示計画

コンセプト 地域の自然資源の価値を守り活かせる人を集める・育む

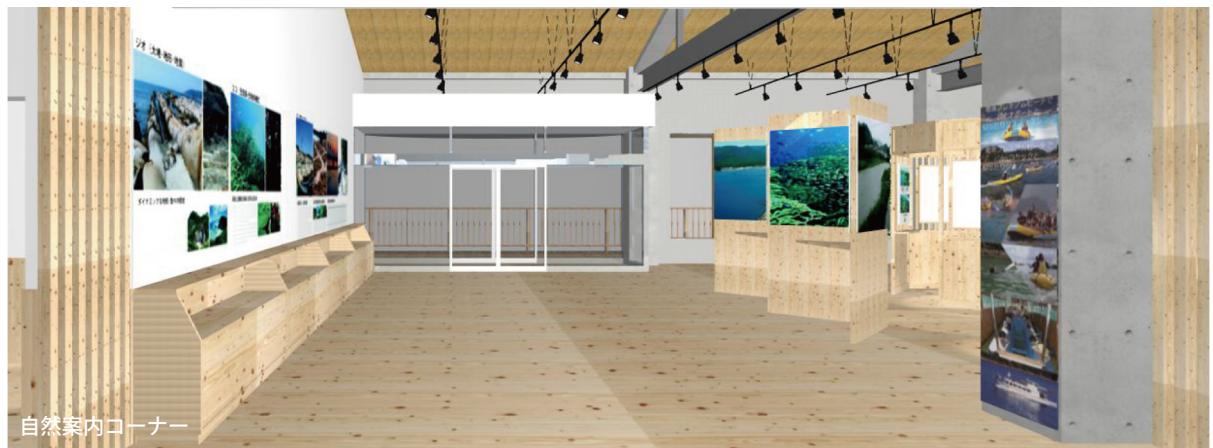
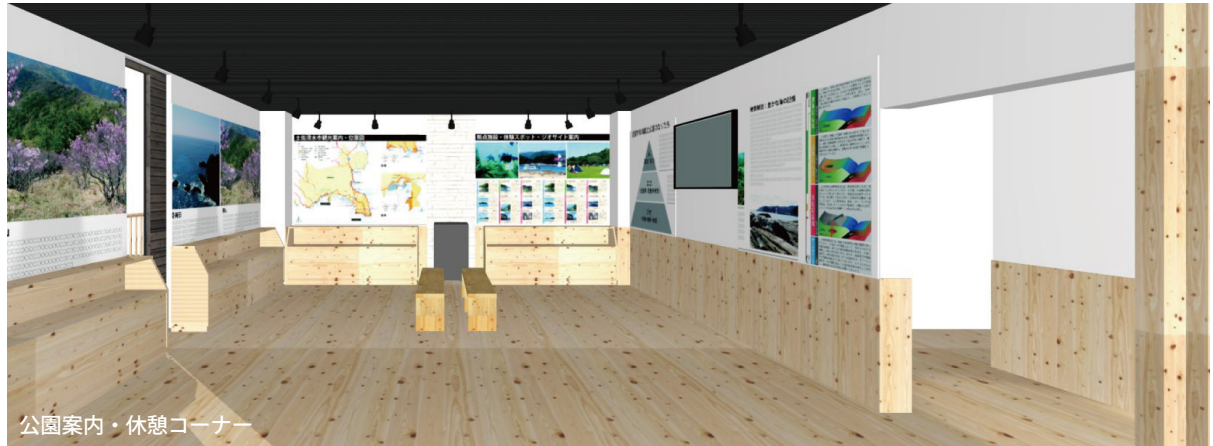
- ツアーデスクと展示を相乗的に機能させることで国立公園足摺地域の魅力を伝え、好奇心や体験意欲を刺激し、竜串・足摺地区を中心としたフィールドや体験拠点の利用を促す
- ジオパークの概念を通じ、当地域がどのように成り立ち、守られ、活かされてきたか、多様な時間および空間スケールで景観を読み解く視点のもと、自然資源の価値への理解を促す
- 自然再生の足跡、自然環境に関する一次情報を提供し、竜串の今を発信し続けることで、自然資源を見守る目、保全活動と地域づくりを後押しする力を内外に集め、育んでいく

平面図 S=1:150



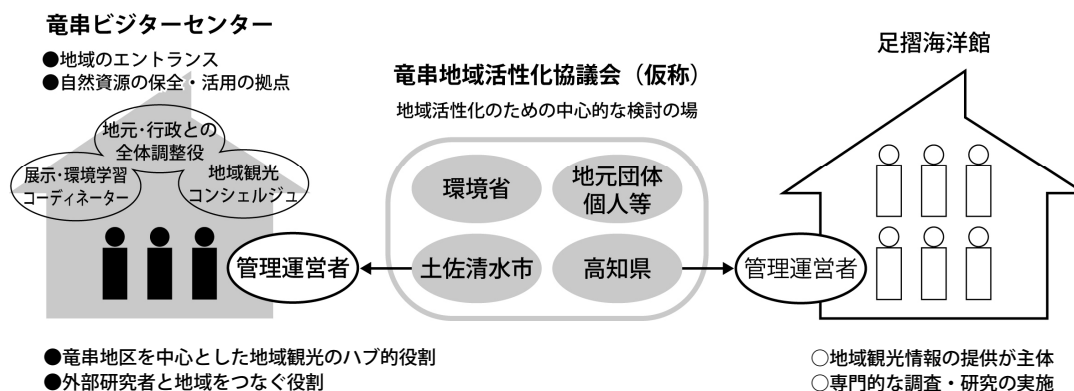
展示テーマ	目的・内容
Ⅰ 足摺宇和海国立公園足摺地域の魅力	● 足摺宇和海国立公園・足摺地域の紹介（位置／範囲／主要エリア） ● 足摺半島南部／竜串千尋岬／篠山エリアの特徴と見どころ（自然景観・動植物・文化など）
Ⅱ 土佐清水市の資源・アクティビティ（竜串・足摺地区を中心として）	● 市内の主要な拠点施設・移動ルートの紹介 ● 竜串地区を中心としたフィールド情報・アクティビティ・利用案内（受付はツアーデスクを兼ねたCTで） ● ジオサイト・モデルコースの紹介（奇岩とサンゴ／火山の記憶／宗田節の秘密／地震の災いと恵み）
Ⅲ 地域の成り立ち	● ジオパークの概念に基づく展示オリエンテーション（ジオ・エコ・歴史文化からなる地域の景観） ● 各展示テーマに関する概説（展示テーマⅠ～Ⅴ）
Ⅳ 竜串地区の今昔	● 地形・地質解説（深海・浅海・火山・新たな海の記憶／奇岩のなりたち） ● 生態系解説（サンゴをはじめとする海洋生物／沿岸部に生育する特徴的な植物・ハビタット） ● 歴史文化（ジオストーリー／遍路文化／国立公園指定後の観光開発の歩み）
Ⅴ 竜串自然再生の契機	● プロローグ：健全な竜串の海（桜浜の魅力・サンゴ等豊かな海洋生物）／荒廃した竜串の海（西南豪雨後） ● サンゴの危機・要因についての解説（西南豪雨／山林崩壊／泥土堆積／サンゴ衰退）
Ⅵ 自然再生事業の経緯・効果	● 竜串自然再生事業の紹介（各事業の内容：泥土除去／森林整備／オニヒトデ駆除／広報活動） ● 事業効果と今後の展望（課題も含めて）
Ⅶ みんなで続ける保全活動	● サンゴ保全の取組の紹介（サンゴを未来に残していくために継続していくこと） ● 様々な保全活動の紹介（足摺岬ヤブツバキ林再生／篠山アケボノツツジ保全管理 etc.） ● 情報蓄積・発信（自然再生調査から得られた知見の活用）

内装・展示イメージ





- 園路広場の舗装は、新海洋館の外構施設と共通の意匠・機能とする（駐車場＝透水性アスファルト、VC周囲＝透水性インターロッキング、歩道＝透水性樹脂舗装を予定）
- 環境省事業区域内の雨水は、VC浄化槽の排水と合わせて愛宕川に放流する（側溝は、美観と歩行性に優れるスリット側溝を使用予定）
- 照明施設は、新海洋館の照明計画に準じる（H4.5mのポール灯により、駐車場に平均13lxの照度を確保予定）
- 造成法面に張芝（ノシバ）、愛宕川沿いに転落防止用の低木帯を設ける（構成種＝ヤブツバキ、ハマヒサカキ、トベラ、シャリンバイなどの自生種）
- 各種サインの配置・デザインは、竜串地区全体で整合を図るべく、引き続き検討予定



	平成 29 年度 6 9 12	平成 30 年度 6 9 12	平成 31 年度 6 9 12	平成 32 年度 6 9
環境省事業	実施設計・ 建築確認申請	第 1 期工事	VC 開館・供用	第 2 期工事
高知県事業	新海洋館敷地造成・ インフラ盛り替え工事		新海洋館本体工事	生体移設 現海洋館解体 外構工事 新海洋館 開館・供用

仮設計画

